

令和 6 年度第 11 回 清瀬市まちづくり委員会議事要旨

【開催日時】

日時：令和 7 年 2 月 25 日（火）午後 6 時から 7 時 23 分

場所：本庁舎 4 階 研修室

【出席委員】

望月委員長、渡邊副委員長、荒井委員、池田委員、大室委員、神山委員、岸本委員、國井委員、里見委員、柴田委員、城山委員、関根委員、中村委員、野村委員、古川委員、星野委員、牧井委員

【配布資料】

令和 6 年度第 11 回 清瀬市まちづくり委員会次第

令和 6 年度第 10 回 清瀬市まちづくり委員会議事要旨

市民提案 NO. 4

【議事】

1 開会 挨拶 望月委員長

2 事務局より

（１）配布資料の確認

（２）令和 6 年第 10 回議事要旨の確認 →修正等なし

3 報告事項 渡邊副委員長

（１）市長への手交報告

〔副委員長〕

渋谷市長に手交したものは以下の 3 資料

①清瀬市まちづくり基本条例の運用状況に関する提言

②まちづくり基本条例に関する運用状況調査報告

③「清瀬市まちづくり基本条例に関する提案」に係る報告書

市民提案の市長への提言は審議時間不足のため、本年度は見送り、継続審議し、来年度に「市長への提言」を提出することを市長に伝えた。

市長からは「引き続き頑張ってください」と言葉があった。

〔事務局〕

手交日（2/18）の夕方、まちづくり委員会から報告書が提出された

旨を庁議で報告を行った。市長からの指示事項も伝え、翌 19 日に開催された部課長会でも報告を行い、こちらでも市長からの指示を伝えた。

(2) 新規市民提案の提示 → 1 件 (議論は次回)

4 振返り (最終資料について)

- ①清瀬市まちづくり基本条例の運用状況に関する提言
- ②まちづくり基本条例に関する運用状況調査報告
- ③「清瀬市まちづくり基本条例に関する提案」に係る報告書

【1 グループ】

1 グループが担当した「基本構想等への参画」では全くわからず大変だった。また、条例第 4 条と 11 条の評価部分では (長期総合計画・実行計画の) 目標値がわかりづらく苦労した。来年度はスムーズに行っていきたい。

【2 グループ】

特定の委員で評価したが、市民側と市側の表現があり難しかった。また、余裕をもったスケジュール感があつたらよかった。

【3 グループ】

初めての作業で、とっつきにくいという意見もあった。時間が無い中で、所管課に調査する質問項目も具体的な記述式に変えても良いと思った。

5 協議事項

(1) 今後のまちづくり委員会の進め方について

副委員長 委員長からの 8 つの提案を踏まえてグループ討議を願いたい。

[8 つの提案]

- ①すでにある市民提案 3 件についてどのように深化させていくか
- ②市民提案の提出数がこのまま少ないペースの場合、さらなる PR 方法を検討するか
- ③委員も“清瀬市民”であるので、前期のように委員からの提案も可とするか
- ④市民提案の次年度スケジュールをどうするか
- ⑤現在の 3 グループのグループ分けを変更するか
- ⑥ 3 グループ分けにこだわらない他の方法を考えるか
- ⑦「条例に関する運用状況調査」について、4 月からの進め方をどうするか。

⑧事務局と委員会運営を検討する「運営委員会」のようなものをつくるか

【1 グループ】

- ①少ない時間の中でしか議論を行っていないので、深く話していくことが必要。
- ②提案したいが市民提案用紙がどこに置いてあるのかという声がある。印刷はどのぐらい残っているのか。SNS でも周知をしたらどうか。
- ③提出しても良いが審議している側なのでしなくてもいいのではないかな。
- ④今年作業をして、ある程度把握ができたので（調査）項目を決めるところから早めに動いていく。
- ⑤・⑥このまま継続で良いと思う。
- ⑦どんな風に（調査が）進んでいっているのかが見えない。
- ⑧やる方向で話を進めていく。

【2 グループ】

- ①議論をしていたが、判定基準を設けたらどうか。
- ②リアクションがないので、PR はこのまま継続して市の Twitter 等で行っていく。
- ③勿論可能。
- ④今年やってみて、1 件あたり提言までもっていくと半年かかると思った。
- ⑤・⑥グループ分けは、関係性が築かれてきたのでこのままのグループで良いと思う。（発言者や書記などの）役割分担を決める。
- ⑦（回答なし）
- ⑧必要だと思う。

【3 グループ】

- ①市民提案が届いたら担当課になげかける。
- ②PR は必要。分析をし、認知度をあげる。
- ③OK。普段通り提案者名は伏せて提示する。
- ④皆でスケジュールの見直しは必要。
- ⑤・⑥市民提案によっては有り。
- ⑦次年度は調査の仕方を検討する。
- ⑧委員全員の意見をまとめるのは時間が足りない。会の進め方を見直した方が良い。

[地域振興部長より]

年度当初にも申し上げたが、「まちづくり委員会」前期（2022～2023 年度）は市民提案が 30 数件あった。そのため、時間が限られた中で議論しなくてはならず、市民提案を深化させるまで議論しきれなかった。

市民提案が届かない中、委員が提案を提出し、提言までもっていく流れの練習を行った。それにより、最終的に 4 つの市民提案をまとめた市長提言をつくることができた。

まちづくり委員会においては、市長への提言が施策として実現することが委員の醍醐味だと考えている。前期の経過も考慮すると、市民提案を通年募集した場合、審議時間が足りなくなる。次年度に持ち越すことも起こりうるため、例えば提案募集キャンペーン期間を設ける等、対応できるのではないか。

条例調査は、事務的な作業は事務局で行い、調査した結果を委員に報告して評価をいただくといったことも考えられる。

6 次回開催

令和 7 年 3 月 25 日（火）午後 6 時
清瀬市役所 研修室

7 閉会